

「阪高 SAFETY ナビ」によるドライバーへの事故リスク情報の提供

阪神高速道路株式会社保全交通部 岩里 泰幸・宇野 巧 株式会社交通システム研究所 大藤 武彦・小澤 友記子

より安全な経路選択・出発時刻選択行動を促す取り組み

「SAFETY ドライブスマートチョイス」の概要

任意の条件設定に応じた事故リスク情報提供による
より安全な経路・時間帯への行動選択 を期待



URL ▶ <http://safetynavi.jp/sp/smart-choice/>

▼事故リスク指標の解説

●事故への“注意水準”（リスクレベル）

- ・レベル5(最大限注意)
プロドライバーでも運転に最大限の注意が必要で、事故発生の可能性が非常に高く、いつ事故が発生してもおかしくない状態。(全体の約10%)
- ・レベル4(特に注意)
ベテランドライバーも緊張感を持って運転しなければならないような、事故発生の可能性が高い特に注意が必要な状態。(全体の約25%)
- ・レベル3(注意が必要)
初心者には十分な準備と注意が必要な水準。事故発生の可能性が明らかになるため、十分な準備と注意が必要な状態。(全体の約25%)
- ・レベル2(危険が存在)
いくぶん事故発生の危険が存在する水準。少し油断すると事故を起こす可能性がある状態。(全体の約20%)
- ・レベル1(概ね安全)
概ね安全な水準。交通量がそれほど多くなく、事故の発生要因もあまりない状態。(全体の約20%)

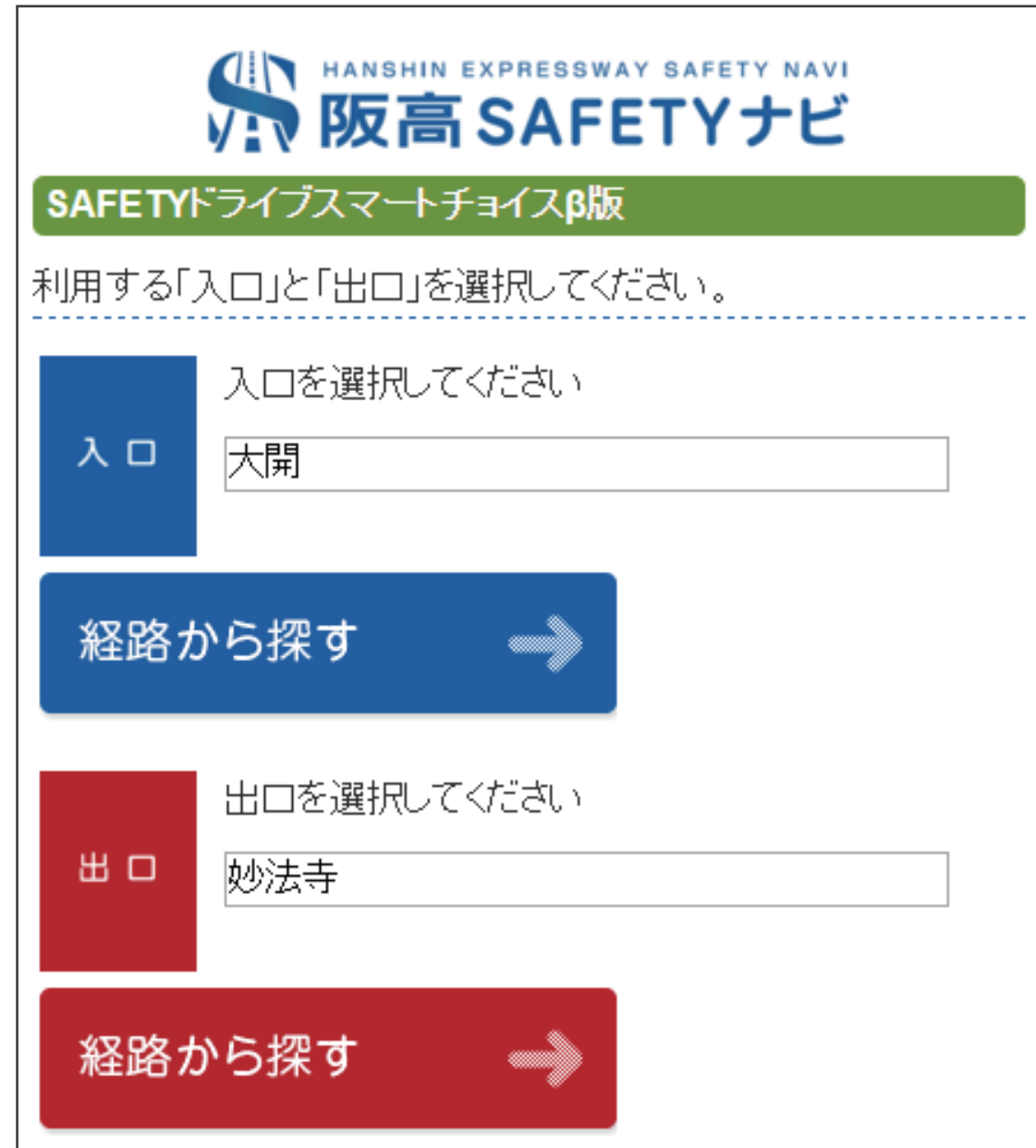
●事故を“起こす”可能性（事故率）

あなたが当該経路で事故を起こす可能性を統計値(事故発生件数/総走行台キロ(件/億台キロ))で表示しています。運転に自信のない方は数字の小さい経路・時間帯を選択されることをお奨めします。

●事故に“出会う”可能性（事故遭遇確率）

あなたが当該経路で事故に出会う確率を統計値(事故率*区間通行台数*事故処理時間(%)で表示しています。特に昼間において確率が低い経路・時間帯の方が所要時間に遅れが生じる可能性も小さくなるので経路・時間帯選択の

▼出入口指定画面



▼検索結果



■活用例 1 より事故リスクが低い経路に



■活用例 2 より事故リスクが低い時間に

経路上の注意地点情報(条件を確認し、注意地点情報をご利用ください)

【経路情報の条件確認】
曜日: 平日 ○ 日・祝日 ○ 週末
時間帯: 14時台
降雨: 降雨なし ○ 降雨あり

経路	第342路	第343路	第344路
所要時間	13時台	14時台	15時台
平均所要時間	68分	74分	77分
事故への注意水準	レベル3	レベル4	レベル4
事故を起こす可能性	83	114	140
事故に出会う確率	26%	51%	57%
事故に注意する地点数	16地点	18地点	20地点

■活用例 3 注意地点の事前認識



「阪高 SAFETY ナビ」の概要

個別具体的なアドバイスにより安全運転への
行動変容を促すコンテンツパッケージ

2011年 本格運用開始

約5万人が取り組み！(2015年3月末現在)
100万人目標！

URL ▶ <http://safetynavi.jp>



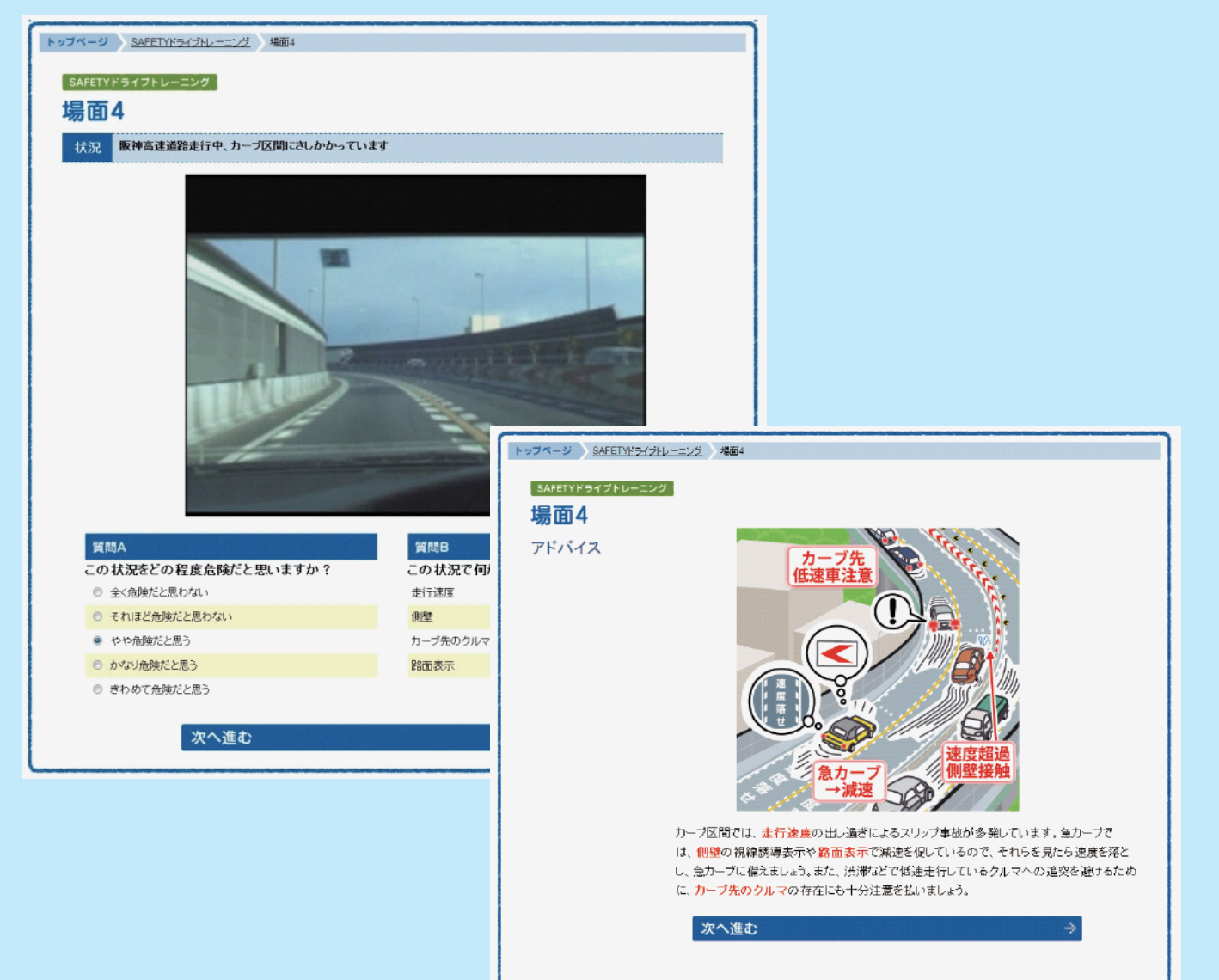
SAFETY ドライブ カウンセリング

阪神高速版 運転適性診断



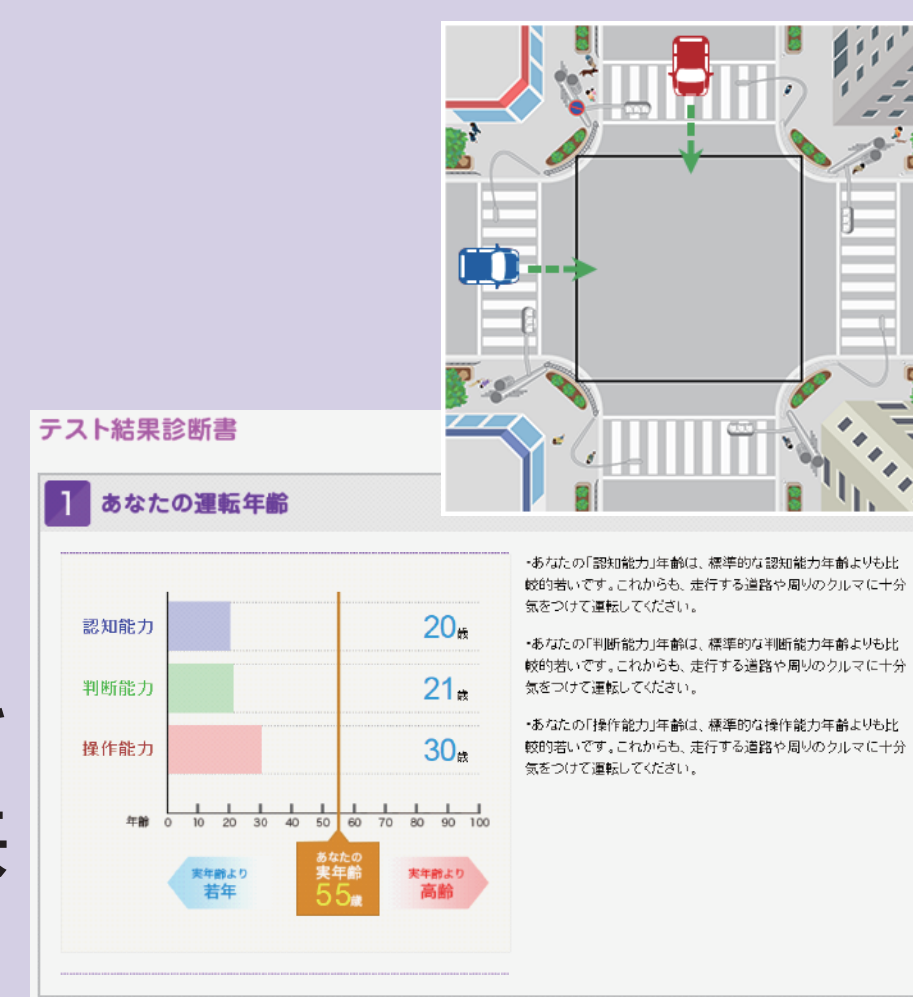
SAFETY ドライブ トレーニング

危険予知トレーニング



SAFETY ドライブチェック

認知・判断・操作機能
といった運転能力を
客観的に評価
事故を起こす可能性を
低減するツールを提供



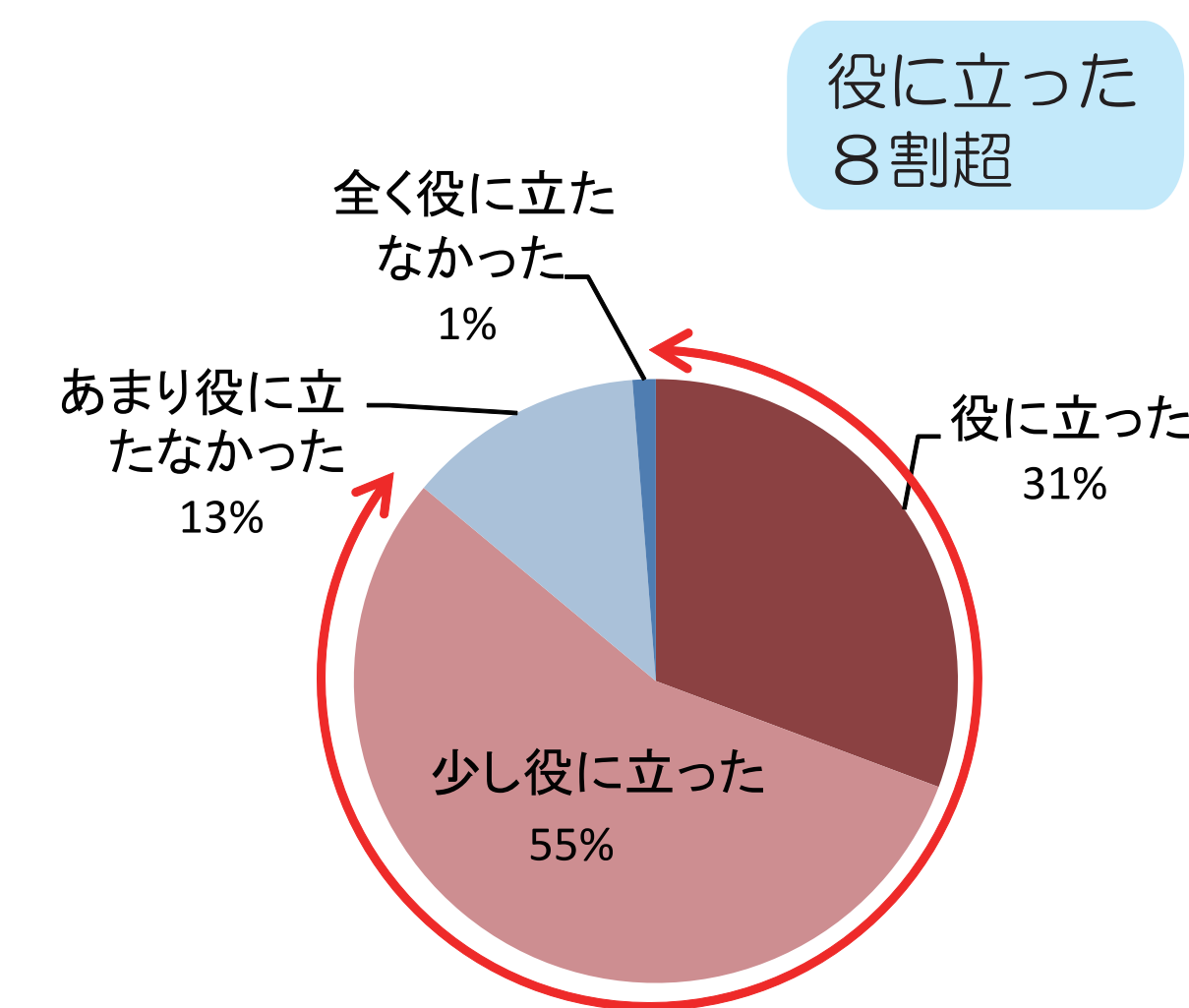
その他コンテンツ

- SAFETY ドライブ プランニング
- チェック！ 要注意地点はここだ！
- 早引き安全ドライブのポイント
- みんなで共有 ヒヤリハット

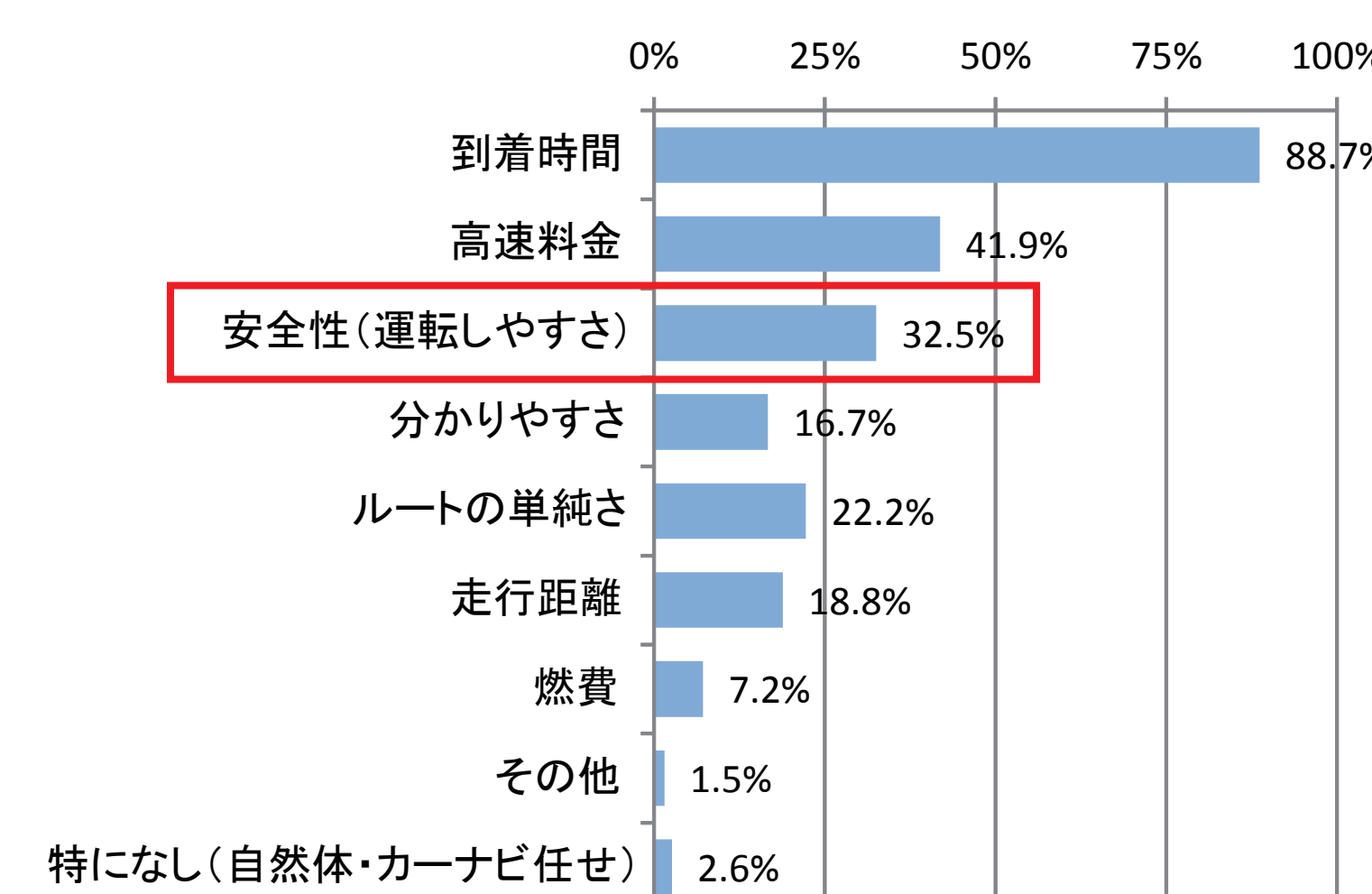
スマートチョイスに関するアンケート結果

(有効回答 1,534名)

Q: 「SAFETY ドライブ・スマートチョイス」は役に立ちましたか？

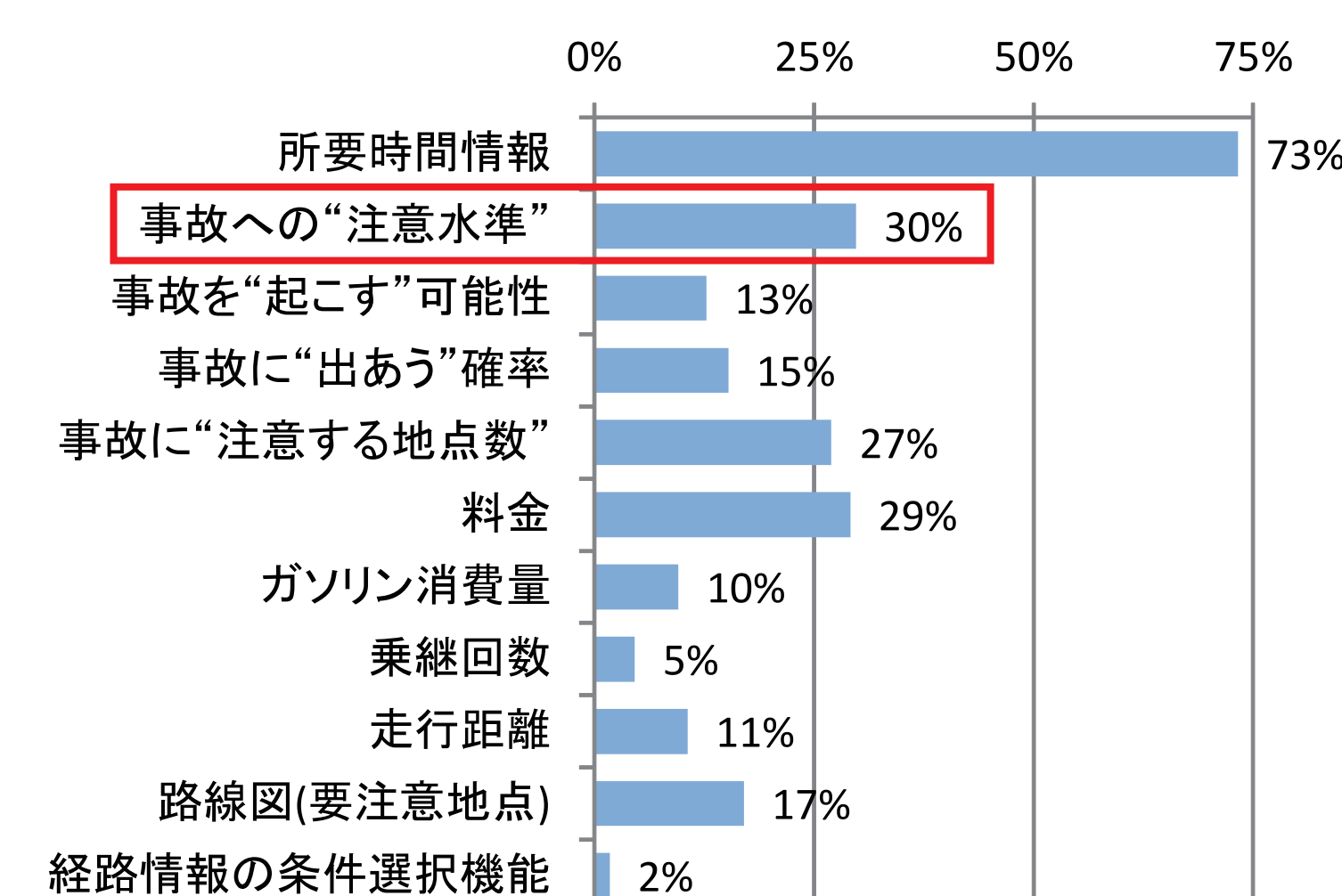


重視する項目 (複数回答: 3つまで)



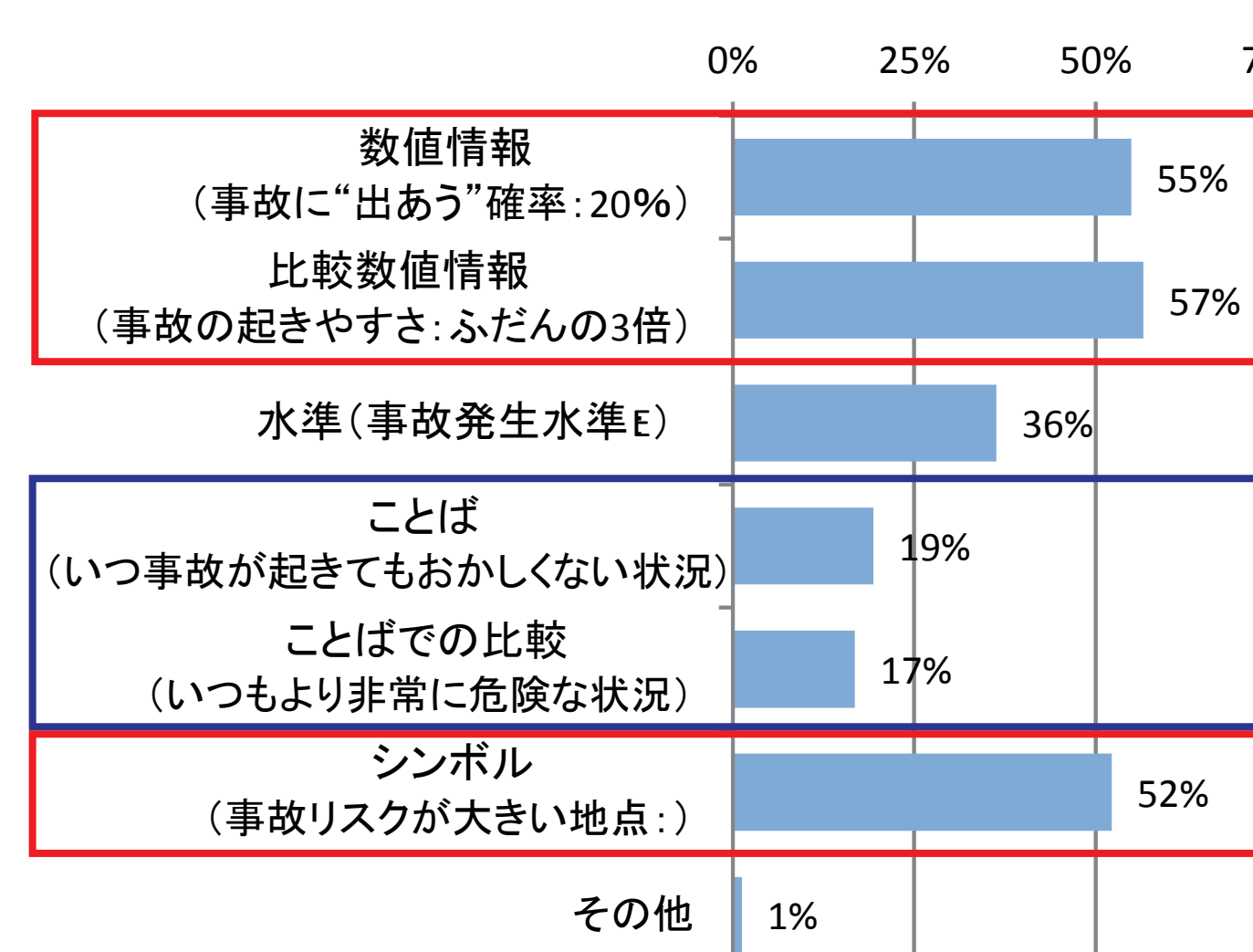
Q: 「経路比較」で主にどのような情報や機能を活用したくなりましたか？

事故への注意水準の活用意向が高い



Q: 事故の危険性を判断する指標として、イメージしやすい指標は？ (複数回答: 3つまで)

◎数字・シンボル ×ことば



今後は、より分かりやすく、かつ社会的影響も考慮した「事故リスク」の低い指標提供を検討。